

# 10月 月例会報告

【日時】令和 7年10月25日 (土曜日) 13時から17時  
【会場】中央区・明石町区民館 参加者 14名 リモート参加 5名

## 第一部 【研究発表と懇談会】

1. 研究発表 題名：「天武・持統紀トピックス」 一部・二部とも 新保 高之氏
- (1) 説明趣旨：月例会第二部「読書会」で履修した「天武紀（下）と持統紀」で扱ったトピックスなどについて、両紀に共通・相反する事項などについて再紹介がありました。
- (2) 発表項目：次のようでした。はじめに、①両紀の特徴②補注③重大な出来事と重要施策④詔と勅⑤外交関連⑥行幸等⑦正月行事⑧壬申年之功⑨倭国の〇〇王⑩「饗応」⑪自然現象⑫両紀のみの記事など、まとめ。
- (3) 論点など：①両紀とも実録的な記事が中心、②天武紀の詔勅に比べ持統紀には冗長的記事が多い。③持統紀元年二年条が天武天皇の葬送記事で埋められているのは異常。④両紀の記事には依拠史料の移入・移出が多数のある可能性も、などでした。
- (4) 質疑等：両紀には特に唐との交流記事がないこと、その理由や背景を説明する意見が多かったように思います。(発表55分、質疑10分)
2. 【懇談会】 引き続いて、研究発表への意見交換が少しありました。(10分)

## 第二部 【勉強会】 「古田武彦『ここに古代王朝ありき』その一」 (今回から履修対象が変わりました)

- (1) 説明対象 ①目次と各章・節群の題名、②「はじめに」の要点、③第一部〔邪馬一国の考古学〕中の第一章「卑弥呼に会った魏使」、でした。
- (2) 説明内容 ①これらの提示、②説明、③全8節の要点を抽出して解説など、④この章は古田先生の思考の流れに沿って記述されている、等でした。
- (3) 質疑等 ①「奴国」の想定場所や吉武高木遺跡の位置について確認の質問、②吉野ヶ里に関連して三種の神器の起源などについての意見交換などがありました。(解説・質疑40分)

## 【読書会】 「岩波文庫『日本書紀』「雄略紀新規その一」

- (1) はじめに、「雄略紀」履修中断の経緯と履修済み部分の雄略五年二月条までを例示するとの説明がありました。
- (2) 対象 ①第一（神代上）～第十三（允恭・安康天皇）巻の主要記事の例示と雄略紀五年二月条まで、でした。
- (3) 履修内容、①「雄略天皇紀」の主要記事の提示と、②「雄略天皇紀」五年二月条までの原文記事と現代語訳を例示しての説明・解説でした。
- (4) 質疑応答 ①記事内容は実録的ではなく殆どを説話で構成されている。②仁徳紀の髪長媛説話との関連で、大和葛城郡と宮崎県とに繋がり。③雄略を悪天皇とするのは仁徳天皇系とは違う王朝だからか。④元年条の采女・童女君と娘に関する色っぽい異例説話の背景への疑問。これについては、「春日大娘皇女は後の仁賢皇后で、後の継体皇后である手白香皇女を生んだ」との説明がありました。このためには、⑤『記・紀』を読み比べるやり方が有効、との話が出ました。なお、三年条末尾の現代語訳は主語の取り違えとの指摘がありました。(解説・質疑50分)

発表資料ご希望の方はメールで [【info@tokyo-furutakai.com】](mailto:info@tokyo-furutakai.com) ご請求ください。